様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　元 年　 ５ 月 ２９ 日現在

機関番号：１２３０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2015～2018
課題番号：１５Ｋ０３００４

研究課題名（和文）観光地をめぐるメディアと場所イメージに関する歴史地理学研究

研究課題名（英文）Historical Geography Research on Tourist Destination Media and Imagery of Place

研究代表者
関戸　明子（SEKIDO, Akiko）

群馬大学・教育学部・教授

研究者番号：５０２０６６２９

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，観光地に関するガイドブック・鳥瞰図・絵はがき・新聞記事・広告・リーフレットなどの多様なメディアを分析することにより，観光地の場所イメージがどのように生成されてきたのかを明らかにすることを目的とした。例えば，草津温泉では，近世には共同浴場の独特の効能を訴えて，多くの療養客を迎えていた。草津温泉組合は，日露戦争のときには軍人に向けて，大正期以降には避暑やスキーを目的とする行楽客に向けて，時局や流行にうまく対応した広告戦略をとって，場所イメージを創り出していた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
近世後半から明治初期の転換期，鉄道や汽船のネットワークにより移動が容易になった明治期，観光の大衆化が進展した大正期というように，通時的に，物質的な空間形成の実態と場所イメージの関係性を考察したことに本研究の特色がある。また，これまで十分に取り上げられていなかった多様なメディアを活用した分析は独自性をもつ。このように近代における観光地のあり方を精緻に描き出した研究成果は，地域資源の再発見や地域の活性化へ向けた手がかりを提供しうる。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes various tourist destination-related media, including guidebooks, aerial maps, illustrated postcards, newspaper articles, advertisements, and leaflets, to show how the imagery of place at a tourist destination has taken shape. In the Early Modern Period instance, Kusatsu Onsen Hot Springs promoted the distinctive benefits of its communal baths to attract many visitors in need of healing. Later, the Cooperative Kusatsu Onsen Ryokan used a skillful advertising strategy attuned to the times and trends to craft an image of the place oriented toward soldiers during the Russo-Japanese War and toward vacationers who, since the Taisho Period, have wanted to escape the heat or enjoy skiing.

研究分野：人文地理学

キーワード：ツーリズム　メディア　観光

１．研究開始当初の背景

歴史地理学の研究手法は，資料・史料の解釈において政治性の検討が重視されるなど，大きな変化をみせてきた。近代の歴史地理学にかかわる研究では，物質的な変化と文化・社会・権力の問題を取り上げ，それにともなう実践や制度，イデオロギーについての議論が行われてきた。他方で，近代日本のビジュアル・メディアに関する研究も盛んであり，諸分野で成果が相次いで刊行されてきている。

また，ツーリズム研究は学際的に展開されており，さまざまな研究成果からは観光地をめぐるメディアに対する関心の高まりが感じられる。こうした研究では，メディア分析によって興味深い知見を呈示しているが，大半は，時代による変化を跡づけたものではない。本研究は，三つの時期の考察をふまえて，観光地を通時的に捉えることを特色とした。

２．研究の目的

観光地に関するガイドブック・鳥瞰図・絵はがき・新聞記事・広告・リーフレットなどの多様なメディアを通して，観光地がどのように表象されたのか，それぞれの主体がどのような実践を行ったのかを分析し，観光地の場所イメージがどのように生成されてきたのかを解明することを研究の目的とした。

近代的な鉄道と汽船のネットワークは空間的障壁を小さくし，人びとはより遠くまで早く移動できるようになり，ツーリズムにかかわる時間と空間は再編成された。メディアの充実によって，地理的想像力はさまざまな場所にまで押し広げられ，ツーリストは，非日常的な他所イメージが投影された観光地に引き寄せられた。本研究では，観光地の物質的な空間形成の実態を明らかにしつつ，他所と差異化して場所を商品化するためのメディアとその作成主体を詳細に分析し，場所イメージを動態的に把握することを試みた。

３．研究の方法

観光地をめぐるメディアに関する一次資料については，各地の図書館，文書館，博物館などにおいて資料調査（書誌事項の記録，撮影・コピーによる画像データ収集）を行った。ただし，本研究で扱うような資料，とくに，絵はがきや一枚物のリーフレットなどについては，公的な機関での所蔵や目録作成が十分に行われていないので，古書店を通じて購入することによって，資料の保存と整理に貢献した。また，ビジュアル・メディアに関する理論的なアプローチを深めるために，各種文献を収集して検討を行った。

４．研究成果

研究成果については，草津温泉に関する事例研究にもとに記述する。

草津温泉は近世後期に出版された温泉番付で，東の大関という最高位に位置づけられていた。草津の温泉は，高温・強酸性で殺菌力があり，皮膚病などに効能をもつ。近世後期の草津温泉絵図 28 点を精査したところ，1820 年代までは縦長の図で参詣曼荼羅図に近い構図であったが，それ以降は横長の図となり，温泉街を俯瞰する構図に変化していることがわかった。絵図の画面に広がる密集した家並みは，草津が山中に位置するにもかかわらず，市街を形成していることを伝えており，独自の効能をもつ共同浴場の存在が最大のセールスポイントとして扱われていたことを明らかにした。

また，近世後期から大正期における紀行文やガイドブックを数多く収集して，そのテクストを分析し，草津に関する叙述内容の変遷を跡づけ，どのような場所イメージが形成されたのかを考察した。近世の由来記・縁起など地元の草津で書かれたものでは，行基と源頼朝による開湯伝説が定番となっていた。明治に入ると，日本武尊による開湯伝説が加わる。明治期に行基や源頼朝に加えて日本武尊の伝説が入った背景には，神話の骨格を事実とする皇国史観の影響や日本武尊を祭神とする白根神社の郷社選定といった出来事があったと推察される。草津鉱泉取締所の委嘱を受けて出版された『上州草津温泉誌』（松永彦右衛門，1905 年）には，草津温泉は最古の武神である日本武尊によって発見され，有名な武将の源頼朝により温泉場である資格を作り，のちに武田信玄，豊臣秀吉等の諸豪傑によってその名声が天下に轟いたことによって，武士の入浴が非常に多く有名になったとある。日露戦争後，軍人の入浴者を多く迎えたい草津にとって，傷病者の療養に適していることを対外的に広告するため，多くの武将の入湯があったことを巧みに強調した歴史叙述となっている。その後のガイドブックでも，こうした歴史叙述が継承されていったことが確認できる。

軽井沢と草津温泉を結ぶ草津電気鉄道は 1926 年に全線開通した。これ以降，草津温泉では客層が多様となり，長期滞在の湯治客だけではなく，避暑やスキーなどを目的とする保養・遊覧客が増加して観光地化が進んだ。明治後期・大正期には，田山花袋・大町桂月など多くの旅行家が全国の山水を探り，新しい風景を発見していき，「山水」をテーマとした多様な著作が生み出された。

田山花袋は，昔の医薬ではどうすることも出来なかった患者が草津に出かけて行ったので，遠い山の中とは思われないほど施設がすぐれており，湯が烈しく，男性的であると述べている（田山花袋『温泉めぐり』1918 年）。また若山牧水は，時間湯をみて，余りにも不思議な境界，今まで知っている温泉場に比べて手触りが余りに異なり過ぎた，長期滞在の湯治客ではない自身にとって，親しみ難いと語っている（若山牧水『静かなる旅を行きつゝ』1921 年）。このほかの著

者も共同浴場で行われる時間湯に言及しており，懸命に湯治する人びとの姿が草津を語るときに欠かせない要素であったことが理解できる。時間湯とは，①みなで揃って板で湯をもみ，成分を均一にして温度を下げる，②100～200 回，ヒシャクで頭部に湯をかける，③湯長の指示で高温の湯に３分間浸かる。これを一日４～５回繰り返すというものであった。1879 年に草津を訪れた大槻文彦は,時間湯を見学してこの熱湯に死ぬ者がいると聞き,「驚き且呆れ醜臭野蛮残酷」と書き記している（大槻文彦『復軒旅日記』1938 年)。

草津温泉には，近世よりハンセン病患者が湯治に来ていた。患者らは草津の市街中央にある源泉の湯畑に近い御座の湯に入浴していた。1887 年には街外れの湯之沢に御座の湯を移し，患者専用の療養地区が設けられた。その後 1931 年に癩予防法が施行され，湯之沢から２㎞ 東方にハンセン病患者の療養所として国立栗生楽泉園の工事が始まった。患者の移転は難航したものの, 1941 年に湯之沢地区の解散式が行われた。

湯之沢の地名は 1825 年の「草津温泉之図」以来，湯川が流下していく街外れに記されており，明治期に入っても継承されていた。右の表には鳥瞰図における湯之沢の記載の有無を整理した結果を示している。

右に掲げた 1905 年の No.34 の鳥瞰図には，ハンセン病の療養地区である湯之沢が，左下の別枠に大きく描かれていることに注目したい。1907 年には「癩予防ニ関スル件」が公布され，救護者のいない患者の収容が始まった。1914 年以降の鳥瞰図では，右下隅に「湯ノ沢町」の文字注記があるだけとなった。No.43 の 1922 年以降は地名の記載さえもなくなる。ハンセン病に対するいわれのない差別や偏見の高まりによって，湯之沢地区は描かれなくなり，排除されたといえる。

病人の集まる草津には「暗いイメージ」がつきまとっていた。例えば，寺内大吉（1921-2008）もそのように表現している（「「湯もみ」で知る草津の魅力　病人専用のイメージから脱皮する日本最大の酸性泉」『旅』1969 年 11 月号)。他方で，大正・昭和初期には，草津温泉組合もハイキングやスキーなどを主題としたリーフレットを発行しており，保養・遊覧客を呼び込む宣伝を行っていた。草津の有力旅館の望雲館が出版したガイドブックには，「御療養と御健康保全」の目的をかなえるよう心がけているとして，老人や子ども等のために，加減をした風呂や淡水の風呂を館内に設けていることを伝えている。つまり，高温・強酸性の草津の湯は強すぎるので，療養を必要としない宿泊客向けの内湯があることを，旅館の特色として差別化していたのである。

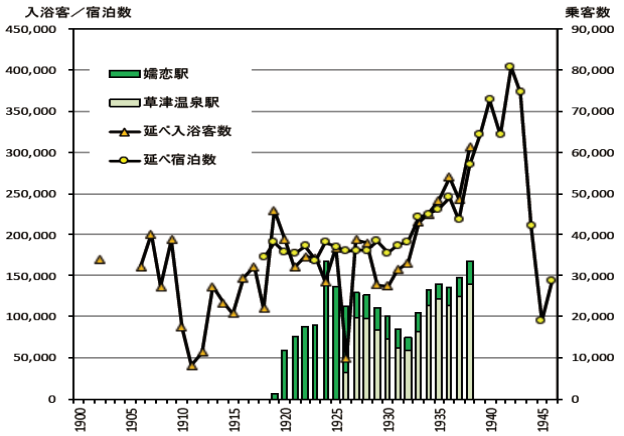
右のグラフに示したように，交通手段の改善や観光地化の進展にともない，草津の宿泊客は大きく増加した。吉田団輔は，草津といえば病人ばかりが集まっていて「何となく重くるしい

表　鳥瞰図における湯之沢地区の記載の有無

No	名称	発行年		湯之沢	白寿	新御座
17	草津鉱泉場之図	1885	明治18	○	○	
19	上州草津鉱泉全図	1887	明治20	○	○	
20	草津鉱泉場之図	1888	明治21	○	○	○
22	上州草津鉱泉全図	1889	明治22	○	○	○
23	上州草津温泉図	1890	明治23	○		○
25	草津鉱泉場之図	1891	明治24	○	○	○
26	上州草津温泉図	1892	明治25	○		○
27	上州草津鉱泉全図	1893	明治26	○	○	○
28	上州草津温泉図	1893	明治26	○		○
30	上州草津温泉全図	1896	明治29	○	○	○
31	上州草津温泉場真図	1897	明治30	◎	○	○
32	上州草津温泉全図	1898	明治31	○	○	○
33	上州草津温泉場略図	1903	明治36	◎		○
34	上州草津温泉場略図	1905	明治38	◎		○
35	上州草津温泉略図	1908	明治41	◎		
36	上州草津温泉真景図	1909	明治42			
37	上州草津温泉真景図	1914	大正3	◎		
38	上州草津温泉真景図	1914	大正3			
39	上州草津温泉真景図	1916	大正5	◎		
40	上州草津温泉真景図	1917	大正6	◎		
41	上州草津温泉真景図	1920	大正9			
42	上州草津温泉真景図	1920	大正9	◎		
43	上州草津温泉真景図	1922	大正11			
44	上州草津温泉案内図	1926	大正15			
45	上州草津温泉真図	1932	昭和7			
46	上州草津温泉鳥瞰図	1938	昭和13	「楽泉園入口」「楽泉園ニ至ル」		

図番号は関戸(2012)による。◎は「湯ノ沢町」と「町」の記載があるもの。No.33-35は図の左下の別枠に家並みの描写がある。

湯之沢の家並を描く鳥瞰図（1905 年，No34）



草津温泉の入浴客数と草津電気鉄道の乗客数の推移
『群馬県統計書』『草津町史』『旅館組合 40 年史』より作成

暗い情景を連想させる」かもしれないが，「高原の明朗さと空気の清浄さ」によって，その予想はすっかり解消されたという（吉田団輔『季節の旅　山・海・温泉』1937 年）。こうした捉え方は，昭和初期における典型的な場所イメージと位置づけられる。

鳥瞰図の文字注記は，共同浴場，名所，寺社，町名などに限られていたが，1900 年代になると，旅館や商店にも付されるようになった。これは，湯治場から観光地へと次第に変容を始めた時期と対応している。草津の特色である多くの共同浴場には，温泉の成分や効能の案内を付していることが多く，浴場の改廃などの実態を忠実に反映して描いている。また，電信，電話，電気や自動車の導入といった近代化を象徴するイベントがあれば，それを伝えるための図像を鳥瞰図に取り入れている。

絵はがきは，土産物として人気で，袋入りのセットで販売されているものが多かった。草津の名所を扱った絵はがきセットの題材を検討すると，温泉街，時間湯，周辺の景勝地という基本的な組み合わせを確認できる。時間湯は，湯もみ・かぶり湯・入浴の 3 枚組となっているものが多く，時間湯に入っている人々の姿は，特徴的な画像として取り上げられていた。また，白根山噴火口（湯釜），殺生河原，翁仙の滝などは，山水ブームの影響によって見出された景勝地である。個人的な写真撮影が困難であった時代，写真帖や絵はがきは，土産話として風景の美しさを伝える重要なメディアであった。

本研究では，ガイドブック・鳥瞰図・絵はがきなどの多様な素材を手がかりにして，観光地がどのように表象されていたのかを，通時的に考察した。草津温泉では，近世後期より共同浴場の独特の効能を訴えており，日露戦争のときには軍人を多く迎えるための広告宣伝を行っていた。大正期以降は，療養客だけでなく，避暑やスキーなどの行楽客に向けて，時局や流行にうまく対応した広告戦略をとって，場所イメージを創り出していたといえる。

今後は，さらに事例研究を積み重ねて，地域差と時代差とをふまえつつ，全体像として旅行文化の特質を見出すこと，観光地のイメージと旅行者の観光経験との接合を図ることを課題としていきたい。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕（計　4　件）

① 関戸明子「江戸後期の草津温泉絵図の記載内容に関する考察」歴史地理学 60-4，査読有，2018 年，1-19 ページ。

② 関戸明子「紀行文に描かれた近代の草津温泉」群馬大学教育学部紀要（人文・社会科学編）67，査読無，2018 年，61-76 ページ。
https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/11764/1/06%20GKJIN-SEKIDO.pdf

③ 関戸明子「草津温泉の開湯伝説と歴史意識の形成」群馬大学教育学部紀要（人文・社会科学編）66，査読無，2017 年，65-78 ページ。
https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/11039/1/06%20GKJIN-SEKIDO.pdf

④ 関戸明子「秋山郷における秘境イメージの形成と流通」群馬大学教育学部紀要（人文・社会科学編）65，査読無，2016 年，37-54 ページ。
https://gair.media.gunma-u.ac.jp/dspace/bitstream/10087/9966/1/03_SEKIDO.pdf

〔学会発表〕（計　4　件）

① 関戸明子「大正期の温泉地における観光経験―伊香保と草津を比較して―」群馬地理学会研究発表会，2018 年。

② 関戸明子「明治前期の東京における温泉の流行」歴史地理学会第 61 回大会，2018 年。

③ 関戸明子「紀行文に描かれた近代の草津温泉」歴史地理学会第 60 回大会，2017 年。

④ 関戸明子「草津温泉における歴史意識と場所イメージ」歴史地理学会第 59 回大会，2016 年。

〔図書〕（計　3　件）

① 関戸明子『草津温泉の社会史』青弓社，2018 年，224 ページ。

② 木村茂光ほか編『日本生活史辞典』吉川弘文館，2016 年，130,160,419,424,476-477,687,690-691,694,695 ページ。

③ 能登印刷出版部編『北陸新幹線沿線パノラマ地図帖』能登印刷出版部，2015 年，8-23 ページ。

〔産業財産権〕

○出願状況（計　0 件）

○取得状況（計　0 件）

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。